

3. 2. 6 セッション「能力開発と教育」

(1) アラン・スティーブンス GSDI 事務局長

「全球空間データ基盤：能力開発促進の手段」

地球規模の SDI の発展に貢献するため国際協力により作成された SDI クックブック (SDI 導入ガイド) の紹介、JICA、EDC、UNEP GRID と協力しケニア測量局で行ったトレーニング、FGDC Cap Grant の資金提供による中国とブラジルでのトレーニング等の GSDI の成功例の紹介があり、また GM/GSDI/ESRI 及びインターグラフ助成金などの、官民協力による能力開発の紹介があった。また、GSDI の今後の活動として、能力開発における地域モデルの開発と、地域のイニシアティブとの協力について言及した。

(2) イアン・ウィリアムソン メルボルン大学教授

「SDI のための能力開発」

能力開発の基本的な概念を紹介し、能力開発の問題は、主として、広範なシステム（又は社会）、主体（又は組織）、集団（又は個人）という 3 種類のレベルで論じられることが望ましいと主張した。さらに、開発途上国での SDI 開発の重要性を強調し、PCGIAP のような組織は、能力開発の推進のために、この 3 つのレベルをどう考慮していくかという課題を有していると指摘した。最後に、参考として最近刊行された SDI についての著書を紹介した。

3. 2. 7 セッション「空間データの収集、管理、配布」

(1) イアン・ウィリアムソン メルボルン大学教授

「土地管理と SDI の関係」

空間地籍フレームワークを NSDI の基本階層として捉え、筆界調査や大縮尺データ整備に重点を置く必要があると述べた。

(2) シュイ・チョウ博士 中国国家ジオマティックセンター

「APSDI クリアリングハウス整備」

APSDI の機能、構造、ソフトウェアならびに技術的な仕様について説明があった。APSDI クリアリングハウスウェブサイトの設計についても紹介した。

(3) ジェイ・フューケイ 合衆国地質調査所 (USGS) 代表

「21 世紀の地形図」

USGS では、切れ目なく継続的に維持・管理され、全国的に一貫した基本地理データの集積を実現する「ナショナルマップ」プロジェクトを進めている。他の機関との提携により提供される国土地理データは「ナショナルマップ」に不可欠であること、「ナショナルマップ」には、歪み補正済み画像、標高、ベクトルデータ（輸送、水路、構造物及び境界）、地名及び土地被覆という 5 つのレイ

ヤーがあると紹介した。また、災害後の情報収集や長期にわたる干ばつの観測の手段として、リモートセンシングに注目した取組みを紹介した。

(4) シーラ・サリバン ESRI 社代表

「データの普及—SDI パズルの最終のピース」

SDI には標準、方針、データ、手順及び技術についてのフレームワークが必要であり、このフレームワークは地理情報の効果的な調整作業や普及活動に役立つと述べた。またデータ入手、災害時の迅速な対応、効率的な操作及びデータやサービスの提供を容易にするために適切なポータル（アクセスのための窓口機能）が重要であることを強調した。

(5) リチャード・シンプソン インターグラフ代表

「空間データの収集、管理及び提供」

オープン GIS コンソーシアム (OGC) について紹介した。また、相互運用に関するオープンスタンダードを奨励することを目的とする、関係機関の支援のための 550 万米ドルのインターグラフのグラントについて説明した。

(6) 清水英範 東京大学教授

「都市の原風景を探る：昔の東京」

都市計画の計画哲学と方法論を考える場合に、その土地の原地形の特性を重要視する必要があると述べた。そのために地理情報や、GIS・CG 技術などを用いて、様々な視点から当時の景観を再現することが重要であると強調した。また例として、広重の浮世絵や昔の地理情報をもとに江戸の景観を再現したものや、第二次世界大戦以前の沖縄の風景の再現したものが紹介された。また最後に、SDI は原地形など歴史に関する情報を併せ持つことで、GIS の可能性を広げ、社会を豊かなものにすると指摘した。

(7) エド・パーソンズ 英国陸地測量部代表

「ウェブの積極活用」

ウェブサービス (WS) の総合的な計画が示され、パイロット版として英国陸地測量部基本図オンラインサービスが紹介された。WS の行程表と WS-Platform についても紹介があった。また WS コンテンツについての関係機関との連携配布の可能性についても言及した。

4. 技術委員会

各専門分野についての課題について議論を行う 3 つの技術委員会が開催された。